

1年で最も緑の美しい季節

～人々をいやし・希望を与え・食べものを作り・温暖化を防止するみどりの力～

いたばしのみどりの現状は？

1 板橋区の現状

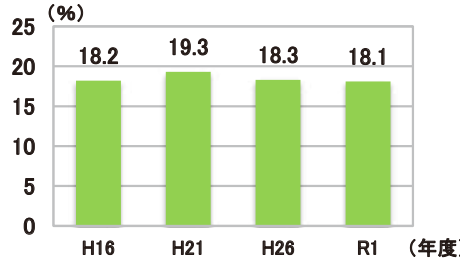
抜粋 「令和5年度板橋区環境白書」
第2部 環境保全の取り組み
基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

区全体の植生被覆率

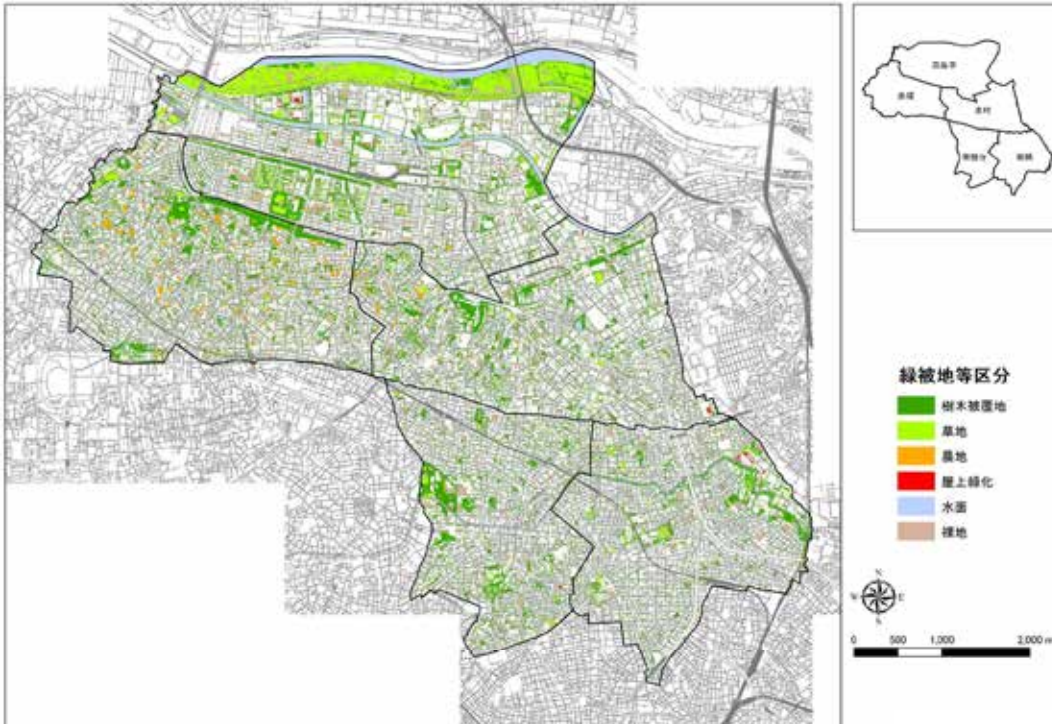
| 指標名 | 基準年値 平成26年度 | めざす 方向性 | 目標値 令和7年度 | 実績値 令和3年度 | 実績値 令和4年度 | 進捗率 | 進捗度 |
|-----------|----------------|------------|--------------|--------------|--------------|-----|-----|
| 区全体の植生被覆率 | 18.3 % | ↗ | 21 % | — | — | — | — |

植生被覆率とは、航空写真撮影時に植生に被覆されている範囲が区域面積に占める割合です。植生の区分はせず、画像処理のみで抽出されたものを植生とします。

2019（令和元）年度に、5年ごとに実施している「緑地・樹木の実態調査」を行い、緑被地や大径木の本数など、区内の緑の現況を調査しました。2019（令和元年）年8～9月撮影の航空写真をもとにした調査の結果、植生被覆面積（樹木や草、芝生、農作物などの植物体に覆われた面積）は581.4ha、植生被覆率（区の面積に対する植生被覆面積の割合）は18.1%でした。前回の2014（平成26）年度調査と比べて植生被覆面積は6.62haの減少、植生被覆率は0.2ポイントの減少となりました。減少の主な要因は、建築に伴う植生被覆地の減少によるものです。



●板橋区の緑被分布図（出典：令和元年度「板橋区緑地・樹木の実態調査（X）」報告書より）



この地図は、東京府知事との協定を受けて、東京府職員2,000人の1日特別を利用して作成したものである。（承認番号111部局基文審第3号）

SOE NEWS

No.205

2024年

5月

センスオブアース
市民による自然共生
パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

センスオブアースは
今年4月に
設立20周年
を迎えました

左図は、いたばし区のみどりの現状。明治時代みどりはほぼ100%だった（区の資料）。

今は、みどりは実質、区の面積の18%。これから減り続けるのをだまっで見えていくのか。ひとり当たり1㎡でも（区民576,600人）増やしていくのか（+57万㎡）。

区民私たちが未来を決めよう。みどりも「主権在区民」の自分ごとにする力で。（SOE）

（「いたばしグリーンプラン2025」第7章 資料編・資料10 緑に関する区民意識 アンケート結果（抜粋）より）

最近5年間くらいで、お住まいのまわりの緑の量は、どのように変わりましたか。

変らない -60% やや減った・かなり減ったを合わせて -25% かなり増えた・やや増えたを合わせて -7%

蓮根第二小学校ビオトープ観察会

参加者23人
4月28日

SOE ワークショップ
環境学習体験会



4月のやわらかい日ざしの日、誕生 25 年目を迎えた蓮根第二小学校ビオトープを東京家政大学宮地ゼミやセンスオブアースのメンバーが観察と保全活動体験のために訪問しました。



深い水でも作業できる胴長をはいた活力ある学生たちと
応援団の深川さん

ビオトープの養生ボランティアを続けられている地域コーディネーターの増田さん、学校開放協力会の深川さんに案内され、補修の手が良く入っている現状の観察と、水施設の課題や生態系の変化などを学びました。ビオトープは維持するのが大変なのですが、地域の方や保護者を中心としたビオトープの補修や授業活用への支援・芝生校庭を永く守り続けてきたことから、昨年度「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023」で「学校・園庭ビオトープ優秀賞」を授与されたばかり（磯茂子校長先生のお話）ということです。学生たちは、校庭の自然の発見活動の後、ビオトープの観察や養生の体験をしました。

学生たちの、キラリとした素朴な感想…
👉 イモムシを発見。ボランティアの方々の活動は大変だと感じた
👉 ミミズの出会いにおどろいた
😊 ギンヤンマのヤゴを見つけた
👉 アゲハチョウを見た
😊 メダカが泳いでいた
👉 テントウムシ、バッタを見つけた。
久しぶりに自然を見て田植え体験を思い出した
👉 普段見ている茨城の田畑があるのに、今日の観察が新鮮だった



大豆を育てよう

私立ほっぺるランド大谷口(保育園)
5歳児16人◎5月9日

大豆ってすごいぞ

見てさわって聞いたこと

大豆はどんなもの?...さわってみる・育ち方・
たくさんの食べ物に変身することを知った・種
についている「おへそ」を見た・根っこにつ
いている根粒菌を観察...栄養を土の生きもの
からもらっているんだって知った・大豆の白い
根っこがたくさん出ているのを見た
紙芝居「花ちゃんとまめっこ」を静かに聞いた



子どもたちの作業を
一人一人温かく見守る先生方
(手前と、一番奥の先生)



根についた根粒菌を観察
白い根も多いね
不思議だね 😊 顔? 顔!!



ベランダ農園で大豆栽培に挑戦

子どもたちの感想... 🌱 苗を植えたことが楽しかった 📷 大豆の変身がおもしろかった

先生方より...当日までプランターを用意するなど楽しみにしていた。パワーポイントは写真が多くわかりやすかった。紙芝居の内容が年長児にとっては少し難しかった。水やりや陽に当てることの大切さを知り、環境への親しみを持てた。大豆が体にもたらす栄養や、丈夫な体を作ることに大切であることを知り、大人も勉強になった。これからは積極的に(大豆を)取ろうと感じた。子どもたちと楽しく大豆のお世話をしていきたいです。



紙芝居「花ちゃん、あそぼう」に集中
花ちゃんと、畑の大豆の子どもたちが一緒に遊ぶシーンで
「こっちの豆は大きいぞ~」

卒園遠足で | 私立つつじ保育園 5歳児19人◎3月22日



つつじ保育園を卒園する子どもたち。卒園遠足として、エコポリスセンターの館内学習のあと、センスオブアースの「風となかよし」の体験を行いました。かざぐるま・紙トンボを助け合いながら仕上げた子どもたち。さっそくかざぐるまと紙トンボをもって出た外は、運悪く風が強く、公園からもどり、すぐ切り替えて室内で回してあそびました。変化に対応して楽しむ力がすばらしかったです。風を使うおもちゃはどこでも誰でもできます!!



先生方より…「降園時、作った風車と紙トンボと経験がお土産話となり、親子の会話が広がりました」「風にはいろいろあること、生活の中にでも役立っていること等子どもたちそれぞれの発見が多く聞かれた。身近なもので、子どもたちが作って遊べるものができ、風とも触れ合え、今後の保育にも取り入れていきたい。私自身も勉強になった」



学生ボランティアによる紙芝居読み聞かせ



かざぐるま日和

私立ほっぺるランド大谷口 (保育園) 4歳児13人◎4月25日

4歳児クラスになったばかりというのに、楽しく、楽しく作り、全力で遊びました。かざぐるま作りの材料の紙には、穴が空けてあるとは言え、竹ひごに折り紙を差し込むのは簡単ではなく、小学1年生でも手助けが必要な作業です。でも、自分でやろうとする意志が強く、わかると、ぐんぐん先に進む子たちが目立ちました。4歳児とは思えない勢いと意欲です。かざぐる



SOE指導者の説明を
しんけんに聞いて
作っています!

まは全員、上手に完成し、全力で楽しんで走っていました!
先生方より…「子どもたちが楽しんで参加してくれた。話を聞いて活動に集中して参加することができた。クラスの子にこんな姿があったのだと、良い気づき、発見があった。大人も子どもも楽しかったです」

